

第6学年1組 図画工作科学学習指導案

授業者 坂 井 貴 文

1 題材名 感じたままに花 (A表現(1)イ、(2)イ、B鑑賞(1)ア)

2 題材について

(1) 児童の実態について

本学級の児童は、造形的な見方・考え方をより働かせて活動する児童が多い。「切って、つないで、新たな世界」では、写真の切り取り方、組合せ方を様々に試して考えを広げたり、表したいことがより明確になるように考えを深めたりして、写真を貼りながら美しい形や色を表した。授業では鑑賞活動を取り入れ、造形的な特徴を意識して対話をするようにした。また、写真を複数枚準備したり、友人同士で写真を交換したりして、様々な造形的な特徴に触れるようにした。そうすることで、造形的な見方・考え方がより働くようにしていった。「切り取って、重ねて、変えて」では、色画用紙を切り取ったり、重ねたりすることを様々に試しながら、考えを広げたり、表したいことがより明確になるように考えを深めたりして、美しい形や色を表した。授業では、色画用紙の切り取り方や重ね方を様々に試し、造形的な特徴をよく考えながら活動できるように、たくさんの色の画用紙を準備したり、友人とともに色画用紙の重ね方を考えたりする活動を取り入れた。また、題材を通して、仮の題名カードを記入するようにし、表したいことについて振り返るようにした。このような指導を通し、造形的な特徴をよく考えることで、造形的な見方・考え方を働かせる姿が見られてきている。

(2) 本題材を指導するに当たって

本題材は、自分が感じたことを思いのままに、花にして表す学習である。表したい花の形や色をよく考え、花をかくことを楽しみながら、自分ならではの表現を追求していくことをねらいとしている。

本題材では水彩絵の具を使ってかいていく。水彩絵の具の使い方についてはこれまで学習してきており、使い慣れている。水彩絵の具を使うことによって、自分の思いに合う色づくりを大事にし、自分の思いに合わせた表し方を考えていくようにしていく。また、児童の状況に合わせて、アクリル絵の具やクレヨン・パスのよさを生かしながら使うことも認めていくようにしていく。

本題材では白色の四つ切り画用紙にかいていく。自分の思いに合わせて画用紙には縦向きにかくか横向きにかくか選び、どこにかくか、どのようにかくか、どれだけかくか、どの視点でかくかなど、表したいことが効果的に表現できるように、構図をよく考えていくようにしていく。

本題材において、造形的な見方・考え方を働かせる姿とは、表したいことを花に表すために、水彩絵の具を使いながら、どのような形にするか、どのような色にするかを試行錯誤しながら、表すことで、造形的な特徴を意識しながら、新しい意味や価値を生み出している姿である。

知識を習得するための指導については、自分の思いを、どのような形や色で表すかをよく考えながら表現するようにし、友人と関わりながら表現の形や色を味わうようにしていく。このような体験を通して、形や色、動き、奥行きなどの造形的な特徴を理解するようにする。

技能を習得する指導については、自分の表したい花に合わせて、表し方を工夫するようにする。そのために、鑑賞活動を取り入れる。友人同士で作品を鑑賞し、工夫したこととその意図について話し合うようにし、自分の作品に生かすようにする。

表現を通して思考力、判断力、表現力等を育成するための指導については、まず、第1時に教師が、実際に絵の具を使い、児童と対話しながら花に表す姿を見せる。対話については、花を見たときにどんな気持ちになるか、どんな場面で花を見るか、花のつくりはどのようなになっ

ているかについての話題を出すようにする。そうすることで、表したいことへの思いを高め、花をきっかけにして、表したいことを思い付くことができるようにする。そして、題材を通して、授業の終わりに「仮の題名カード」にメモをしていく。「仮の題名カード」には、作品の写真を貼り、題名を記入するようにする。そうすることで、活動の過程を振り返りながら、さらに、表したい花についての考えを膨らませていくようにする。また、第4時の初めに「アイデアタイム」を設定する。「アイデアタイム」では、グループで対話しながら、仮の題名と表現を比べて感じたことを伝え合ったり、作品の形や色のよさや美しさについて考えを出し合ったりするようにして、表したい花についての考えが膨らむようにする。

鑑賞を通して思考力、判断力、表現力等を育成するための指導については、第6時に、最終的に完成した作品の、紹介カードを書いていく。作品の世界の説明と自分が表したい花への思いを書くようにしておく。また、毎時間、仮の題名を決定した後に、作品の写真を教師が撮影しておき、仮の題名カードに貼っておく。その仮の題名カードを、第6時の鑑賞で最終的に完成した作品とともに展示しておく。グループごとに鑑賞を行い、どのように考え表していったのかについて、話し合いながら友人の思考を読み取るようにしていく。鑑賞活動を行うことで、友人の活動のよさを捉え、自分が感じたことを思いのままに、花にして表すことのよさ、表したい花の形や色などの美しさを、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めるようにする。

3 教科の研究主題との関わり

本校図画工作科では、研究主題「表現と鑑賞を相互に関連させ、思考力、判断力、表現力を高める指導の工夫」の下、思考力、判断力、表現力等に着目し、視点と手立てを講じて、指導法の改善を行ってきた。（詳細は研究紀要：図画工作科編参照）その中で本題材では次の視点に特化し、研究を具現化していく。

視点1：考えを生み出す過程を通して、表現や鑑賞を相互に関連させ、思考力、判断力、表現力を高める。

題材の過程において鑑賞する時間を設定することで、表現と鑑賞を相互に関連させ、自分の考えを広げたり、増やしたりするようにし、より思考力、判断力、表現力等を発揮していけるようにする。

4 題材の目標・評価規準

(1) 題材の目標

自分らしさの発揮 自分が感じたことを思いのままに、自分らしく花に表す。

(2) 題材の評価規準

本題材は、思考力、判断力、表現力等に重点を置いて指導・評価するため太字で表記した。

題材の評価規準（本校図画工作科独自の研究によるもの）		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
知 どのような形や色の花にするか、よく考えながら表すことを通して、形や色などの造形的な特徴を理解している。 技 自分の意図や目的に合わせて表し方を工夫して表している。	表 自分が感じたことをきっかけにして、かくことを様々に試しながら、表したい花を思い付いている。 表 さらに、表したい花についての考えを膨らませている。 鑑 自分の思いを話したり、友人と話し合ったりして、作品の表現の意図や工夫を感じ取っている。	表 自分の思いを形や色にして表すことを試しながら、表すことを楽しもうとしている。 鑑 自分の友人の作品のよさや美しさを感じ取ろうとしている。

5 題材の指導計画・評価計画（6時間扱い）

本時 1 / 6 時

時	学習活動	題材の評価規準との関連	○具体的な児童の姿・ 評価方法
第 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 時	1 教師と対話しながら、教師がかく様子を見て、表したい花について考える。	思考力，判断力 表現力等表 第2時全児童記録 知識	○花をきっかけにして、表したいことを思い付いている。 ○友人と対話しながら表したいことを見付けている。 ＜対話・表現・記録＞ ○自分の感じたことをもとに花を表すことを通して、形や色などの造形的な特徴を理解している。
	2 表したい花の表し方を考える。 ↑ 行き戻り ↓	技能	○自分の表したい花の形や色をよく考えて表すことを通して、形や色などの造形的な特徴を理解している。 ＜対話・記録＞ ○自分が表したい花に合わせて、絵の具の使い方を工夫している。
	3 表したい花の表し方を工夫する。	学びに向かう力，人間性等表	○自分の思いに合わせ、花の表し方を試行錯誤し、工夫している。＜行動観察・対話・表現＞ ○自分の表したい花を、形や色をよく考えながら活動を楽しんでいる。 ○自分の表したい花をかく活動に興味を示し、様々な表現を楽しもうとしている。 ＜行動観察・対話・表現＞
		思考力，判断力 表現力等表 第5時全児童記録	○表現を試行錯誤していくことで、表したいことをさらに膨らませている。 ○すでに表したことさらに自分の思いを膨らませている。 ＜対話・表現・記録＞
第 6 時	4 自分の作品の紹介カードを書き、自他の作品を鑑賞する。	学びに向かう力，人間性等表 思考力，判断力 表現力等鑑	○友人と話し合いながら、自他の作品のよさや美しさを味わおうとしている。 ○感じたことを伝え合いながら自他の作品を楽しもうとしている。＜対話・表現・行動観察＞ ○自他の表現について友人と話し合い、表現の意図や表現の工夫を感じ取っている。 ○自他の表現を比べ、表現のよさや美しさを感じ取っている。 ＜対話・記録＞

6 本時の学習指導（1 / 6 時）

(1) 目 標

- 自分が感じたことをきっかけにして、かくことを様々に試しながら、表したい花を思い付いている。
(思考力，判断力，表現力等)

(2) 準 備

- 教師 四つ切り画用紙、
- 児童 絵の具、クレヨン・パス

